

(6) 北海道鷓川高校の資料

- 鷓 1 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（1年次）《第1次》
- 鷓 2 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（1年次）《第2次》
- 鷓 3 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施報告書（1年次）
- 鷓 4 令和4年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（2年次）
- 鷓 5 令和4年度 北海道 CLASS プロジェクト実施成果報告書（2年次）
- 鷓 6 令和5年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（3年次）
- 鷓 7 全道地学協働活動研究大会発表資料
- 鷓 8 令和5年度 北海道 CLASS プロジェクト実施成果報告書（3年次）

資料 鷓 1

令和3年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（1年次） 《第1次》

学校名	北海道鷓川高等学校
作成日	令和3年6月9日

1 課題把握

(1) これまでの学校と地域の関係・取組

- ・平成15年よりむかわ町の協力と支援により連携型中高一貫教育を実施
- ・令和2年6月 高校魅力化コンソーシアム創設
- ・令和2年度より高校魅力化コーディネーター配置
- ・令和3年4月 コミュニティ・スクール導入
- ・平成29年より学校設定科目「むかわ学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」により地域人材や地域の教育資源を活用した地域課題解決型探究学習を実施
- ・令和3年9月 むかわ町により高校生対象の公設塾設立予定
- ・監督やコーチを町で採用し、生徒向けの学生寮を設立するなど地域と連携した部活動を実施（野球部）、サッカー部、バドミントン部、ソフトテニス部が町内の団体と連携して活動
- ・令和2年度より学校設定科目「チャレンジスタディ」にて、町の事業所や団体と連携し3ヶ月に及ぶ長期インターンシップ「デュアルシステム」を実施
- ・令和2年度より北海道高等学校「高校生対流促進事業」により高校2年生1年間の単年度留学である「地域みらい留学365」をむかわ町や地域住民との連携で開始

(2) 現状における課題

- ・町の少子高齢化、人口減少を教育の面から支えるため高校の魅力化を図ることで関係人口、交流人口の増加及び町の活性化を図る必要がある
- ・令和5年度以降の部活動地域移行に係る方向性が見いだせていない
- ・「むかわ学」等探究学習や「チャレンジスタディ」等キャリア教育の更なる充実
- ・探究学習から派生する各種プロジェクトへの人的・経済的支援体制の充実

2 仮説検討・テーマ設定・目標設定

(1) 研究仮説

- ・地域で学ぶ児童・生徒が国・数・英・むかわ学に関して12年間で身に付けるべき資質・能力を「むかわスタンダード」として設定し地域に周知することで、地域での学びを保障するとともに家庭や地域の協力をより確かなものとする事ができると思われる。
- ・部活動の地域移行への足がかりを築くことで、令和5年度からの段階的移行が小中学校も含めて円滑に推進できるとともに、地域全体でスポーツや文化の面でも、子どもたちを育成する体制が加速すると思われる。
- ・道外からの推薦入学が実現すれば、入学生の生活支援などを通して地域住民

資料 鷗 1

と学校の関係がさらに深まり、関係人口の増加や町の活性化につながるとともに双方の生徒にとっての異文化体験や視野の拡大が促進されると思われる。

(2) 研究テーマ

「地域をキャンパスとした学び」を通じた持続可能な連携型中高一貫教育のモデルプランの形成

(3) 今年度の目標

- ・「むかわ学」等探究学習や「チャレンジスタディ」等キャリア教育のさらなる充実
- ・探究学習から派生する各種プロジェクトへの人的・経済的支援体制の充実
- ・むかわ町教育委員会と協働し、地域での学びを保障するとともに家庭や地域の協力をより確かなものにするために、小中高等学校の学びの接続の一環として地域で学ぶ児童・生徒が国・数・英・むかわ学に関して 12 年間で身に付けるべき資質・能力を「むかわスタンダード」としてまとめ、地域住民に周知する。
- ・令和 5 年度より段階的に地域移行と示されている部活動について、学校だけでは移行が難しいため、地域、特に社会教育や振興局、首長部局等及び、本庁の社会教育課・高校教育課の支援を受けながら、北海道における高校の部活動地域移行モデルプランとして早期に完成させる準備として地域の協力体制の検証を行う。
- ・現行では、入選の制度として本校のような 2 間口校には道外推薦の制度は認められていないため、高校教育課の支援を受けながら、道外推薦「地域みらい留学」を実現させるべく、次年度以降の導入に向けた準備を行う。

3 研究の具体

(1) 研究内容（選択する項目を■にしてください）

- 「Collaboration」【地域・産業界等との連携・推進】
- （内容）・高校教育課の支援を受け、コンソーシアムやむかわ町、地域住民とともに道外推薦「地域みらい留学」の実現（新入学生を対象）
- ・コンソーシアムや町の事業所、団体の支援を受けて学校設定科目「むかわ学」等における探究学習の充実（全校生徒を対象）
 - ・コンソーシアムやむかわ町の事業所、団体の支援を受けて「むかわ学」等探究学習から派生する各種プロジェクトの充実（全校生徒を対象）
 - ・コンソーシアムやむかわ町の事業所、団体の支援を受けて学校設定科目「チャレンジスタディ」におけるキャリア教育の一環として「デュアルシステム」の充実（グローバルグループ 1～2 年生を対象に行う）
 - ・コンソーシアムや地域住民、町教育委員会とともに公営塾の有効活用（全校生徒を対象）
- 「Literacy」【学んだことを将来に生かす能力】
- （内容）・コンソーシアムや町の事業所、団体の支援を受けて学校設定科目「むかわ学」等における探究学習の充実（全校生徒を対象）
- ・コンソーシアムや町の事業所、団体とともに生徒の発案による各種プロジェクトの支援（全校生徒を対象）
 - ・コンソーシアムやむかわ町の事業所、団体とともに学校設定科目「チ

資料 鷗 1

「デュアルシステム」におけるキャリア教育の一環として「デュアルシステム」の充実（グローバルグループ1～2年生を対象に行う）

■ 「Adult」 【多くの大人が子どもと一緒にあった取組の推進】
 （内容）・地域人材や地域資源を活用し、学校設定科目「むかわ学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」における地域課題解決型探究学習の充実（全学年を対象）
 ・コンソーシアムやむかわ町の事業所、団体とともに生徒の発案による各種プロジェクトの支援（全校生徒を対象）
 ・コンソーシアムやむかわ町の事業所、団体とともに学校設定科目「チャレンジスタディ」におけるキャリア教育の一環として「デュアルシステム」の充実（グローバルグループ1～2年生を対象に行う）
 ・高校教育課、むかわ町及び町教育委員会の支援を受け、令和5年度までに部活動の地域移行モデルプランの形成（全ての部活動を対象）

■ 「Student」 【生徒理解に基づく指導の充実】
 （内容）・町内の小中学校及び町教育委員会とともに小中高等学校の学びの接続の一環として小中高12年間の「むかわスタンダード」の作成
 ・コンソーシアムや町の事業所、団体とともに生徒の発案による各種プロジェクトの支援（全校生徒を対象）

■ 「System」 【学校と地域の連携・協働の仕組みづくり】
 （内容）・高校教育課、むかわ町及び町教育委員会の支援を受け、令和5年度までに部活動の地域移行モデルプランの形成（全ての部活動を対象）
 ・高校教育課の支援を受け、コンソーシアムやむかわ町、地域住民とともに地域みらい留学の実現（新入学生を対象）

(2) 研究成果の普及方法

- ・テレビや新聞等のマスコミを活用した広報
- ・学校ホームページや学校だよりを活用した広報
- ・SNS（Twitter, Instagram, Facebook, LINE）を活用した広報

(3) 研究のイメージ（概要等）

別紙「地域をキャンパスとした学び」を通じた持続可能な連携型中高一貫教育のモデルプラン概要」参照

(4) 研究組織

① コンソーシアム構成図

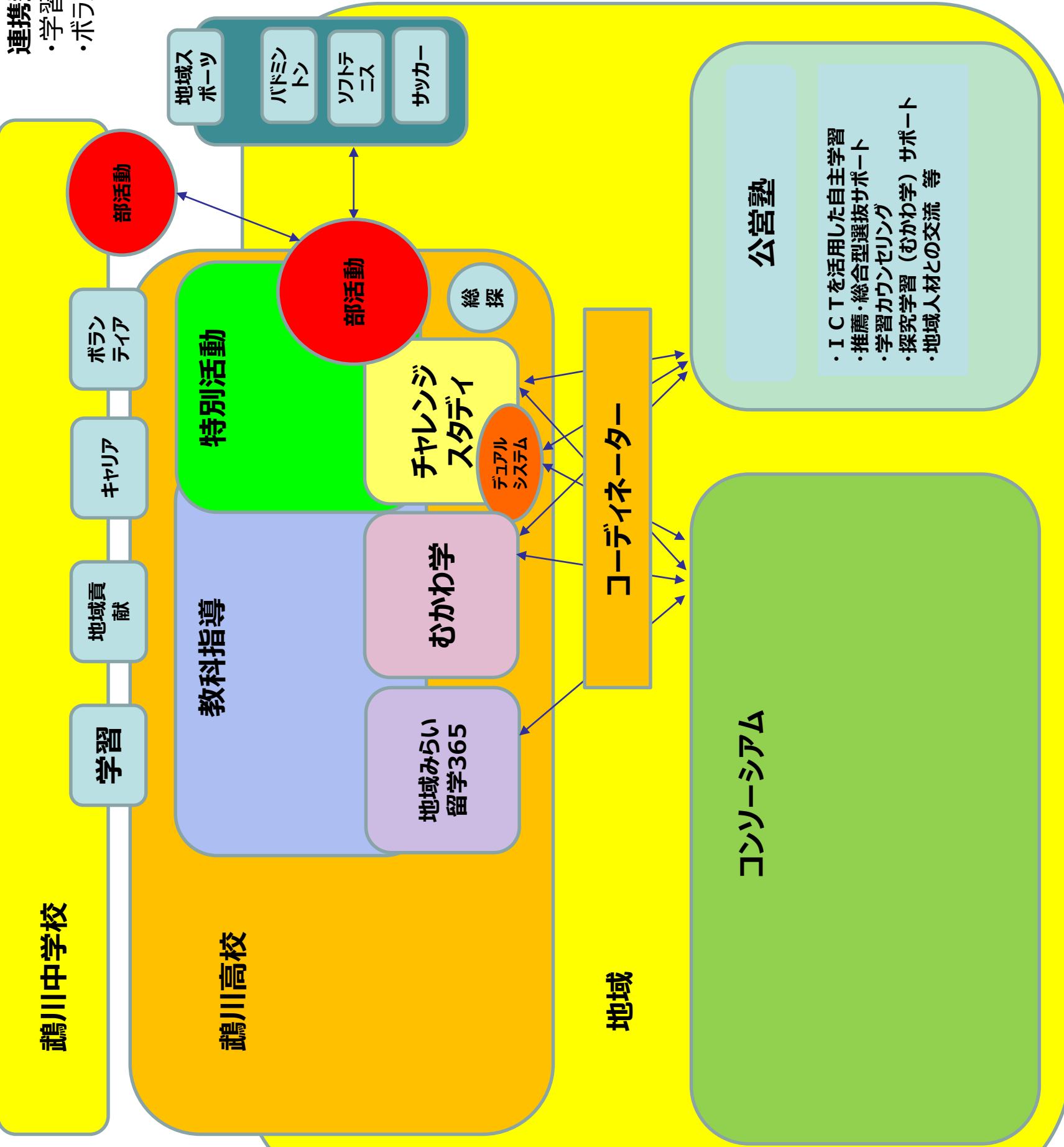
別紙「地域をキャンパスとした学び」を通じた持続可能な連携型中高一貫教育のモデルプラン コンソーシアム概要 参照

② 校内体制

職名	氏名	担当教科・分掌等
校長	三村 素道	
教頭	石田 毅	
教諭	山岸 拓	英語・企画総務部長
教諭	秋田 泰	英語・チャレンジスタディWGリーダー
教諭	水尾悠紀子	理科・むかわ学WGリーダー

4 その他特記すべき事項

「地域をキャンパスとした学び」を通じた
持続可能な連携型中高一貫教育のモデルプラン概要



連携型中高一貫教育 4つの柱

- ・学習
- ・地域貢献
- ・キャリア
- ・ボランティア
- ・部活動

むかわ町との連携体制

2021.2.9 連携協定にて明文化

コンソーシアム

本校の支援組織

研究内容

- <現行の実施内容の充実>
- ・地域課題解決探究学習「むかわ学」の充実
 - ・地域密着型キャリア教育「デュアルシステム」の充実
 - ・公営塾の有効活用
 - ・生徒発案による各種プロジェクト支援

<新規の取組>

- ・道外推薦（地域みらい留学）の実現
- ・部活動の地域移行
- ・小中高12年間の「むかわスタダード」の作成・周知

武川中学校

武川高校

地域

コンソーシアム

公営塾

- ・ICTを活用した自主学習
- ・推薦・総合型選抜サポート
- ・学習カウンセリング
- ・探究学習（むかわ学）サポート
- ・地域人材との交流 等

「地域をキャンパスとした学び」を通じた持続可能な連携型中高一貫教育のモデルプラン コンソーシアム概要

顧問
むかわ町 竹中町長
北大 小林快次教授

鶴川高校魅力化コンソーシアム



【育成したい生徒像】

- グローバル化する社会の一員としての基礎的な資質・能力を身に付け地域社会に貢献できる生徒
- 自己の特性や能力を最大限に伸ばさせ、主体的にたくましく生き抜くことができる生徒

地域をキャンパスとした新しい連携型中高一貫教育

高校生としての基礎的・基本的な学び



地域をキャンパスとした学び

生徒の特性や能力を伸ばさせる教育システム



コーディネーター

特別会員 カムイサウルス

資料 鷓 2

令和3年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（1年次） 《第2次》

学校名	北海道鷓川高等学校
作成日	令和3年 9月29日

1 3年間の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアムや町の事業所、団体の支援を受けて、学校設定科目「むかわ学」等における探究学習が更に充実し、地域住民と高校生が協働した地域創生及び各種プロジェクトの実施。 ・「デュアルシステム」が定着・拡大し、学校と地域の企業との関係の深化に伴う、Uターンを含めた地元就職者の増加。 ・公営塾を活用した町内の学習環境向上に伴う地元中学生の鷓川高校への進学率の向上及び、地域人材が集うコワーキング・スペースへの発展。 ・高校教育課、むかわ町及び町教育委員会の支援を受け、部活動の地域移行への足がかりを築くことで、段階的移行が小中学校も含めて円滑行われるとともに、地域全体でスポーツや文化の面でも子どもたちを育成する体制の促進。 ・高校教育課の支援を受け、コンソーシアムやむかわ町、地域住民とともに道外推薦「地域みらい留学」の実現に伴う関係人口の増加と町の活性化。 ・地域で学ぶ小中学生及び高校生が12年間で身に付けるべき資質・能力をスタンダード化した「むかわスタンダード」の定着による地域での学びの保障及び学校教育に対する家庭や地域の協力体制の強化。
--

2 年次ごとの目標と取組計画

月	取組
1年次 (R3)	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「むかわ学」等探究学習や「デュアルシステム」等キャリア教育のさらなる充実 ・探究学習から派生する各種プロジェクトへの人的・経済的支援体制の充実 ・小中高12年間の「むかわスタンダード」の作成 ・部活動地域移行に係る地域の協力体制の検証 ・道外推薦制度導入に向けた準備 ・地域みらい留学365の複数名の生徒の獲得 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むかわ学への町民参加及び、デュアルシステム受入企業の拡大 ・地域人材と協働したプロジェクトの実施 ・小中高の協働による「むかわスタンダード」作成 ・公営塾の立ち上げと、公営塾スタッフと学校職員との連携体制の構築 ・部活動地域移行の試案作成 ・生徒を主体とした学校の魅力発信による複数名の地域みらい留学365生の獲得 ・町内の居住施設等との連携を図り、留学生の最適な環境づくり <p>【検証の項目】 ※定量及び定性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に対する高校魅力化の浸透

資料 鷓 2

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校と地域との協働 ・ 地域外に対する高校魅力化の浸透 ・ 「地域をキャンパスとした学び」による生徒の変化
2 年次 (R4) 【予定】	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学とも連携した「むかわ学」等探究学習や「デュアルシステム」等キャリア教育のさらなる充実 ・ 探究学習から派生する各種プロジェクトへの人的・経済的支援体制の充実 ・ 公営塾の充実 ・ 小中高 12 年間の「むかわスタンダード」をむかわ町教育委員会として決定・公表 ・ 部活動地域移行に係る協力体制の確立 ・ 道外推薦制度導入に向けた準備 ・ 地域みらい留学 365 への複数名の生徒の獲得 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高大連携のもと町民を巻き込んだむかわ学の実施及び、デュアルシステム受入企業の拡大 ・ 地域人材と協働したプロジェクトの拡大 ・ むかわ町としての「むかわスタンダード」の決定・公表 ・ 公営塾の効果的運用 ・ 部活動地域移行に係る協力体制確立 ・ 生徒を主体とした学校の魅力発信による複数名の地域みらい留學生の獲得 ・ 道外推薦入学に対応しうる受け入れ体制の環境整備（寮、町親、受入後の年間計画） <p>【検証の項目】※定量及び定性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に対する高校魅力化の浸透 ・ 高校と地域との協働 ・ 地域外に対する高校魅力化の浸透 ・ 「地域をキャンパスとした学び」による生徒の変化
3 年次 (R5) 【予定】	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学とも連携した「むかわ学」等探究学習や「デュアルシステム」等キャリア教育のさらなる充実 ・ デュアルシステムへの参加による Uターンを含めた地元就職者の増加 ・ 地域人材と協働したプロジェクトの拡大 ・ 公営塾の発展 ・ 部活動地域移行の確立 ・ 道外推薦制度導入に伴う生徒募集の開始 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町民を巻き込んだむかわ学の実施及びデュアルシステム受入企業の拡大 ・ 地域人材と協働したプロジェクトの拡大 ・ 公営塾の対象者の拡大と、コワーキング・スペースへの発展準備 ・ 部活動地域移行の確立 ・ 生徒を主体とした学校の魅力発信を行い、道外推薦制度導入に伴う生徒募集の開始 <p>【検証の項目】※定量及び定性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に対する高校魅力化の浸透 ・ 高校と地域との協働 ・ 地域外に対する高校魅力化の浸透 ・ 「地域をキャンパスとした学び」による生徒の変化

資料 鷗 2

3 今年度の検証の項目と方法

検証の項目	検証の方法
地域に対する高校魅力化の浸透	地元中学生の本校進学率
高校と地域との協働	むかわ学に関与した町民数、デュアルシステムの受入事業者数、プロジェクト数と地域人材の関与数等
地域外に対する高校魅力化の浸透	地域みらい留学365生の希望人数
「地域をキャンパスとした学び」による生徒の変化	進路動向、プロジェクト数、学校評価等

4 今年度（令和3年度）の計画

月	取組
5	第1回コンソーシアム運営会議、第1回学校運営協議会
7	地域みらい留学合同・個別説明会 生徒プレゼンテーション
8	地域みらい留学合同・個別説明会 生徒プレゼンテーション
9	地域みらい留学合同・個別説明会 生徒プレゼンテーション 公営塾開設準備・塾講師と生徒との交流開始（進路指導等）
10	第2回学校運営協議会 公営塾開塾 留学生のオープンキャンパス参加、来町、面接 むかわ学 町民参加型巡検、講義 令和4年度地域みらい留学生受入者決定
10~11	デュアルシステム実施（町内11事業所）
12	第2回コンソーシアム運営会議、第3回学校運営協議会
2	第3回コンソーシアム運営会議、第4回学校運営協議会

5 その他特記すべき事項

--

資料 鷗3

令和3年度 北海道CLASSプロジェクト実施報告書（1年次）

学校名	北海道鷗川高等学校
作成日	令和4年3月15日

1 今年度の検証について

①	検証の項目	地域に対する高校魅力化の浸透
	検証の方法	地元中学生（鷗川中）の本校進学率
	検証結果	令和4年度入学生 13名/37名中（35%）2次募集含めない 昨年度入学者実績 18名/44名中（41%）

②	検証の項目	高校と地域との協働
	検証の方法	むかわ学に関与した町民数、デュアルシステムの受入事業者数、プロジェクト数と地域人材の関与数等
	検証結果	(1)むかわ学に係る外部連携団体数 今年19団体 (2)デュアルシステム参加団体数 7団体 (3)コンソーシアム委員 31団体 48名 (4)町民との意見交換による地域課題の共有 ア 町民参加授業、発表会の実施（町広報での周知） ア) むかわ学Ⅰ授業 各回3~4名 イ) むかわ学Ⅰ後期発表会 約2名 ウ) むかわ学Ⅲ提言発表会 来賓14名+高齢者大学参加者6名

③	検証の項目	地域外に対する高校魅力化の浸透
	検証の方法	地域みらい留学365生の希望人数
	検証結果	(1)地域みらい留学 希望者 昨年3名 内定者1名 今年8名 内定者1名 (2)本校公式(1)Facebookのフォロワー4800名以上

④	検証の項目	「地域をキャンパスとした学び」による生徒の変化
	検証の方法	進路動向、プロジェクト数、学校評価等
	検証結果	(1)地元新聞「苫小牧民報」、「北海道新聞」、HBC ラジオ出演等による本校の活動に関する記事掲載は70回以上 HTB ほかテレビ報道 (2)今年度は、むかわ学Ⅲから派生した「むかわキンパ」販売プロジェクトの生徒が観光協会の支援を受け、「むかわキンパ娘」として、ラジオ、テレビに出演し、長期取材をうけ、7月から10月まで全8回のラジオのレギュラー出演を果たしむかわ町をPRした。結果、下記の賞をいただいた。 (3)むかわ学のプロジェクトを技術向上のための取組 〈高次大会出場させた応募内容〉

資料 鷓 3

	<p>ア むかわ学Ⅰ、Ⅱ 「SDGs Quest みらい甲子園」に応募（代表2グループ） 結果：予選落選</p> <p>イ むかわ学Ⅲ： ア）チャレンジグルメコンテスト応募（コープさっぽろ） 結果「わが街発信賞」受賞〈むかわキンパ〉</p> <p>イ）第9回高校生ビジネスプラングランプリ（日本政策金融公庫）応募 予選落選：〈むかわ肉まん〉</p> <p>ウ）Challenge Gate 2022（経済産業省） 応募 結果：落選 〈むかわ肉まん〉</p> <p>エ）My PROJECT AWARD 2021（NPOカタリバ）予選突破東日本 Summit 出場 〈むかわでコスプレ〉</p> <p>オ）第4回持続可能な世界・北海道高校生コンテスト 4ゼミ応募「プレゼンテーション賞」受賞〈高齢者と幼児〉</p>
--	--

2 今年度（令和3年度）の取組

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
5	第1回コンソーシアム運営会議 第1回学校運営協議会①（書面会議）	高校魅力化事業内容 （通年で実施した魅力化事業の学習内容）
7	地域みらい留学合同・個別説明会 生徒 プレゼンテーション	(1)高校生対流促進事業（地域みらい留学365）での留学生交流
8	地域みらい留学合同・個別説明会 生徒 プレゼンテーション	(2)むかわ学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲによる地域での学び
9	地域みらい留学合同・個別説明会 生徒 プレゼンテーション	(3)デュアルシステムでの地域事業所でのキャリア学習
	公営塾開設準備・塾講師と生徒との交流 開始（進路指導等）	
10	第2回学校運営協議会	(4)公営塾（夢叶輪公営塾）での放課後学習、 公営塾スタッフによる進路支援
	公営塾開塾（オープニングセレモニー）	
	留学生のオープンキャンパス参加、来町、 面接	
	むかわ学 町民参加型巡検、講義	
10	令和4年度地域みらい留学生受入者決定	(6)大学生と連携した学び（札幌大学での 上級学校体験。今後の足がかりとして）
デュアルシステム実施（町内11事業所）		
11	第3回学校運営協議会 第1回魅力化事業ブラッシュアップ会議	
12	第2回コンソーシアム運営会議 第2回魅力化事業ブラッシュアップ会議 第1回高大地連携プロジェクト会議	
2	第4回学校運営協議会書面審議 第3回ブラッシュアップ会議 第2回高大地連携プロジェクト会議	
3	第3回コンソーシアム運営会議書面審議	

資料 鷗 3

3 組織化に関する検証【推進校のみ】

(1) コーディネーター選出の方針【教育局記入】

--

(2) コーディネーター選出の方法【教育局記入】

--

(3) コーディネーターとの連携

職員室内にコーディネーターが在中し、先生方とコーディネーターの情報交換用のホワイトボード等も設置し、日常的な連携を行っている。

(4) コンソーシアム設置に関わっての方針

町と学校で過去に学校の授業等に支援いただいた企業・団体や地域活動に積極的に取り組む団体等をリストアップし、各種団体、個人に委員を委嘱した。

(5) コンソーシアム設置に関わっての方法

事前に選出した委員に対して、総会として招集し、コンソーシアムの目的、事業内容、組織、役員、運営委員の役割を説明し、了承を得てコンソーシアム運営委員会の設置と組織を成立させた。会長は、むかわ町副町長に依頼し、地域から学校を支援する体制を築くために、コンソーシアムは町の主導で高校魅力化を推進していく体制をとった。

(6) コンソーシアム会議における議題

--

4 組織化以外の成果等

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 公営塾設立 ・ むかわ学プロジェクトのコンテスト系への応募数 5件 ・ 報道を活用した情報発信量の増大（テレビ、ラジオ出演等多数） |
|--|---|

資料 鷓 4

令和4年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（2年次）

学校名	北海道鷓川高等学校
作成日	令和4年5月17日

1 今年度の目標と取組計画

月	取組
2年次 (R4) 【予定】	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校×大学×地域の3者と連携した「むかわ学」等探究学習や「デュアルシステム」等キャリア教育のさらなる充実 ・探究学習から派生する各種プロジェクトへの人的・経済的支援体制の充実 ・公営塾の充実 ・小中高12年間の「むかわスタンダード」をむかわ町教育委員会として決定・公表 ・部活動地域移行に係る協力体制の確立 ・道外推薦制度導入に向けた準備 ・地域みらい留学365への複数名の生徒の獲得 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大地連携のもと地域町民、大学生を巻き込んだむかわ学の実施及び、デュアルシステム受入企業の拡大 ・地域人材と協働したプロジェクトの拡大 ・むかわ町としての「むかわスタンダード」の決定・公表 ・公営塾の効果的運用 ・部活動地域移行に係る協力体制確立 ・生徒を主体とした学校の魅力発信による複数名の地域みらい留学生の獲得 ・道外推薦入学に対応しうる受け入れ体制の環境整備（寮、町親、受入後の年間計画） <p>【検証の項目】※定量及び定性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域をキャンパスとした学び」による生徒の変化

2 今年度の検証の項目と方法

検証の項目	検証の方法
・地域に対する高校魅力化の浸透	地元中学生の本校進学率
・高校と地域との協働	むかわ学に関与した町民数、デュアルシステムの受入事業者数、プロジェクト数と地域人材の関与数等
・地域外に対する高校魅力化の浸透	地域みらい留学365生の希望人数
「地域をキャンパスとした学び」による生徒の変化	進路動向、プロジェクト数、学校評価等

3 今年度（令和4年度）の取組

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4	第1回コンソーシアム事務局会議	
5	第1回コンソーシアム役員会議	

資料 鷓 4

	第 1 回学校運営協議会	
5	第 1 回コンソーシアム運営委員会	
7	第 2 回コンソーシアム事務局会議	
10	第 3 回コンソーシアム事務局会議	
10	第 2 回コンソーシアム役員会議 第 2 回学校運営協議会	
11	第 2 回コンソーシアム運営委員会	
2	第 4 回コンソーシアム事務局会議	
2	第 3 回コンソーシアム役員会議 第 3 回学校運営協議会	
2	第 3 回コンソーシアム運営委員会	

4 小・中学校との連携を強める取組

- ・連携型中高一貫教育における、年間 20 回以上におよぶ高校教員による中高連携学習会の実施と合同講演会、合同ボランティア活動の実施
- ・小中学校の教頭先生が委員として参加する年 3 回のコンソーシアム運営委員会で高校の取組の周知。
- ・デュアルシステムにおいて、小学校、中学校での 3 ヶ月間の生徒の実習を通じた生徒間の連携の強化。
- ・小中高の教科接続を示した「むかわスタンダード」の検証

5 その他特記すべき事項

--

資料 鷓 5

令和4年度 北海道CLASSプロジェクト実施報告書（2年次）

学校名	北海道鷓川高等学校
作成日	令和5年3月22日

1 今年度の検証について

①	検証の項目	地域に対する高校魅力化の浸透
	検証の方法	地元中学生（鷓川中）の本校進学率
	検証結果	令和4年度入学生 7名/40名中（17%）2次募集含めない 昨年度入学者実績 13名/36名中（35%）

②	検証の項目	高校と地域との協働
	検証の方法	むかわ学に関与した町民数、デュアルシステムの受入事業者数、プロジェクト数と地域人材の関与数等
	検証結果	(1)むかわ学に係る外部連携団体数 今年20団体（19→20） (2)デュアルシステム参加団体数 団体（7→10団体へ） 生徒の受け入れ述べ人数 50名 (3)コンソーシアム委員 30団体 46名 (4)町民との意見交換による地域課題の共有 ア 町民参加授業、発表会の実施（町広報での周知） ア）むかわ学Ⅰ発表会 約50名（四季の館憩い広場、大ホール） イ）むかわ学Ⅱ発表会 約50名（四季の館憩い広場、大ホール） ウ）むかわ学Ⅲ提言発表会（高校体育館来賓28名＋参加者5名）

③	検証の項目	地域外に対する高校魅力化の浸透
	検証の方法	地域みらい留学365生の希望人数
	検証結果	(1)地域みらい留学 希望者 昨年8名 内定者1名 今年8名 内定者2名 (2)本校公式(1)Facebookのフォロワー2000名以上

④	検証の項目	「地域をキャンパスとした学び」による生徒の変化
	検証の方法	高大地連携による進路動向、プロジェクト数、学校評価等
	検証結果	(1)夢叶輪公営塾の支援をうけ、国立大学小樽商科大学合格者1名、釧路公立大学合格者1名など進路実績 英語検定試験1級合格等、公営塾のスタッフと連携した進路活動の成果が現れた。 (2)地元新聞「苫小牧民報」、「北海道新聞」、本校の活動に関する記事掲載は30回以上 NHKほっとニュース北海道ほかテレビ報道 (3)今年度は、むかわ学Ⅲから派生した「コスプレイベントプロジェクト」の生徒が地域、札幌大学の支援を受け、9月に町内全域を使ってイベント成功させた。また、「むかわクレープ」の商品開発では、札幌大学生と協働して札幌市内の研修や札幌大学を使った専門家による

資料 鷓 5

	<p>講習会等の商品開発を経て、地元の食材を使った「むかわクレープ」を完成させ、町内のチャレンジショップを使って販売した。 これらの取組の結果、下記の賞をいただいた。</p> <p>(4)むかわ学のプロジェクトを技術向上のための取組 〈高次大会出場させた応募内容〉</p> <p>【むかわ学Ⅲ】</p> <p>a 日高・胆振サラブレッドツアー企画 b 空き家ビジネス・廃材活用 c むかわ町PR動画作成 d 防災×Minecraft イベント企画 防災マップ作り e 鹿対策 ジビエハンバーグ&鹿避けロボット f む〜ぶと子どもの健康増進 g 町民参加大イベント企画 h ふるさと納税返礼品となる特産品商品開発 l むかわ和牛寿司商品開発</p> <p>【むかわ学Ⅰ、Ⅱ】</p> <p>a 第10回高校生ビジネスプラングランプリ（日本政策金融公庫）応募 b 北海道教育委員会 STEAM 教育推進事業「探究チャレンジ胆振・日高」審査員特別賞 「防災×マイクラフト」</p> <p>【むかわ学Ⅲ】</p> <p>a My PROJECT AWARD 2022（NPO カタリバ）東日本 Summit 出場（コスプレ） b 第5回持続可能な世界・北海道高校生コンテスト 3ゼミ応募 「STV 賞」（フードロス対策）、「びっくり！SDGs 賞」（鹿肉ハンバーグ）受賞</p>
--	---

2 当事者の声について

生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人との交流があり、地域のことを多く知れるからいいと思う（留学） ・留学生への負担が重すぎると思うのでもう少し軽くした方がよい。（留学） ・他の県から来やすいように教育委員会からお金など補助をもっと増やしてもらうなどをすると、来てもらえる人が増えるのではないか。（留学） ・どんどん留学生を受け入れてほしい。 ・チャレンジスタディで取り組む活動をもう少し増やしてほしい。
教諭	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内での教育活動について、必要に応じてコンソーシアムに参加している団体の協力を得ながら進めることができた。今後、コンソーシアム参加団体がさらに本校との連携を進められるような施策を検討し、実施する。 ・個別最適な学びの場としての「むかわ学」、「チャレンジスタディ」になるよう、生徒の将来像を見据えたカリキュラムマネジメントを実践する。 ・授業の中で関西や神戸の話を出した際に彼女から話をしてもらった際、他生徒が地

資料 鷗5

域の違いについて直に知ることができていた。

- ・次年度もコンソーシアムや地域の力を借りながら、「むかわ学」や「デュアルシステム」を通して、積極的に地域に出て学びを深め、高校生のアイデアで地域の魅力化やグローバル化を後押しできる活動を実践する。
- ・「むかわ学」において、2、3 学年でのゼミの体制や発表会の目的、方法をアップデートし、より生徒が主体的に取り組めるような体制作りをする。
- ・チャレンジスタディにおいて、今まで以上に積極的に地域人材を活用する
- ・デュアルシステムとインターンシップのメリットを活かした進路指導の実現を図る。
- ・次年度小中高の連携で作成した国数英の3教科のスタンダードを踏まえて、学びの接続に活かす。また、中高推進委員会を中心に、「むかわ学」で両校が学んだ内容を地域に還元できるような施策を考え、実行する。
- ・留学生の地域の文化を吸収し、よりよい学校ができることに期待しています。
むかわ町で卒業後働きたいと思いたくなるような取り組みにしていこうという人を集めること。そのために、高校や町が本気で町を面白くしようと取り組んでいるか、それかそうしようとしている人を雇うか、育てるかが肝心だと思う。そういったビジョンを持っていることを期待しています。現在、この町が面白い、絶対ここって思っ
て移住してくる人は何人いるのか町に問うてみたいです。もしいるとして、そういう人
たちと町は繋がっているのかも知りたい 留学生だけが住めるアパートや寮が欲しい。
そこを作ることで新たな雇用が生まれるのでは。

地域の方

- ・デュアルシステムシステムの定着、効果的な実践のため、受け入れ先企業に生徒の情報について事前の情報共有が必要だと思います。・「デュアルシステム」や「インターンシップ」のように、社会に出て、たくさんの大人と関わることは経験値をあげるためにとっても良い活動だと思います。
- ・地域みらい留学で全国各地から生徒を受け入れることより、地元高校生にとって多様な文化・考え方をを持った生徒との学びあえる環境となることが、鷗川高校の魅力化につながるものと考えています。また、関係人口創出については、大人（行政側）の思惑が強い事項なので、まずは生徒ファーストで来てくれた生徒にとって貴重な時間になるよう、地域としても協力していきたいと考えています。

3 今年度（令和4年度）の取組

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
5	第1回コンソーシアム運営会議 第1回学校運営協議会① 第1回コンソーシアム事務局会議	高校魅力化事業内容 (通年で実施した魅力化事業の学習内容)
7	地域みらい留学365合同・個別説明会 生徒プレゼンテーション 札幌大学生との合同研究合宿（むかわ） 第2回コンソーシアム事務局会議	(1)高校生対流促進事業（地域みらい留学365）での留学生交流 (2)むかわ学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲによる地域での学び
8	地域みらい留学合同365・個別説明会 生徒プレゼンテーション	(3)デュアルシステムでの地域事業所でのキャリア学習

資料 鷓 5

9	地域みらい留学合同365・個別説明会 生徒プレゼンテーション 公営塾開設準備・塾講師と生徒との交流 開始（進路指導等） むかわ学プロジェクト各種実施～11月	(4)公営塾（夢叶輪公営塾）での放課後学習、 公営塾スタッフによる進路支援 (5)高大地連携による事業 大学生と連携した学び（札幌大学との協働 探究学習、上級学校体験。）
10	第2回学校運営協議会 公営塾開塾（オープニングセレモニー） 留学生のオープンキャンパス参加、来町、 面接 令和5年度地域みらい留学生受入者決定 第3回コンソーシアム事務局会議 デュアルシステム実施（町内11事業所）	
11	第2回コンソーシアム運営委員会	
12	第1回高大地連携プロジェクト会議	
2	第4回コンソーシアム事務局会議 第4回学校運営協議会 第3回ブラッシュアップ会議 第3回コンソーシアム運営委員会	
3	第2回高大地連携プロジェクト会議	

4 小・中学校との連携を強める取組について

- 本校は連携型中高一貫校として、地元の鷓川中学校と日常的な連携を行っている。
- 小中学校の教頭先生が委員として参加する年3回のコンソーシアム運営委員会で高校の取組の周知をした。
- デュアルシステムにおいて、小学校、中学校での3ヶ月間の生徒の実習を通じた生徒間の連携の強化。
- 合同授業の設定など中高教員が連携する場面の設定を進めている。また、中高連携学習会（年20回）や中高ボランティア活動（3時間）以外でも両校が合同で学びを深められるような場面設定をしている。（合同公演会等）
- 昨年度、小中高の連携で作成した国数英の3教科のスタンダードを踏まえて、次年度以降、学びの接続に活かす。また、中高で実施している「むかわ学」で両校が学んだ内容を系統的な指導にため、小学校も含めて、町コーディネーターが中心となり、むかわ学における、「むかわスタンダード」の作成をしていく。
- R4年度は、夏休みに小中合同職員ICT研修会へ、高校も参加させてもらい、小中高合同のICT教育についての教科での実践をワークショップ形式で交流した。